



いのちの資料館 開館から10周年

NPO法人深澤晟雄の会が運営する深澤晟雄資料館は、今年10月で開館10周年を迎えます。生命尊重行政を推進した旧沢内村の深澤晟雄村長の業績を展示し、「いのちの発信基地」として平成20年10月1日開館しました。開館以来、今年3月末まで全国各地をはじめ海外を含めて2万2千人の入館者があり、生命尊重の深澤理念は広く世界に向けて発信されています。

平成20年10月開館以来10周年を迎える深澤晟雄資料館。
(今年4月26日撮影)

10周年記念として岩手県内の小中高校生を対象に「いのち」を考える作文コンクールを行うことになりました。NPO法人輝けいのちネットワークとの共催で、生命尊重の深澤精神を次世代に継承することを目的としています。詳細は資料館にお問い合わせください。

10周年記念に「いのちの作文」深澤晟雄資料館開館10周年記念事業として岩手県内の小中高校生を対象に「いのち」を考える作文コンクールを行うことになりました。NPO法人輝けいのちネットワークとの共催で、生命尊重の深澤精神を次世代に継承することを目的としています。詳細は資料館にお問い合わせください。



今年も海外から来館

「資料館は世界の財産」

JICA(ジャイカ)国際協力機構)の研修で今年も2月9日、途上国といわれる5カ国8人の研修員が資料館を訪れました。東南アジアから3カ国4人、アフリカから2カ国4人の皆さんです。「母子保健」が研修テーマで、参加者は各国を代表する保健省庁の専門職で、英語を共通語に来日しました。資料館ガイドには通訳を通して積極的な質問があり、半世紀前の記録映画で英語解説版の「自分たちで生命を守った村」は真剣な表情で見入っていました。研修員一行を案内してきたJICAの関係者・浅村里沙さんは資料館の感想ノートに「今日の訪問は生涯忘れられない学びであり、全世界にとって財産です」と一行の熱心な姿に感想を記しています。

資料館の感想ノートから



県立病院から 地域医療実習

岩手県立中部病院から地域医療実習で参りました。

普段の病院の業務でも保健活動のことを考えることはありましたが、こんなにも重要なものであったかと考えさせられました。

また、地域のために尽力する姿には非常に感動しました。ここで感じたことを忘れずに、日々働きたいと思いま

す。そしてこれからも深澤晟雄の話を、いろんな方に伝えてほしいと思います。

(和田俊太郎様)

学ぶこと大の

地域保健医療

岩手県立大学看護学部地域実習で資料館に来館しました。深澤さんの地域医療の考えや保健師のあり方について大変大きな学びとなりました。ありがとうございます。

(川村咲季様)

憲法生かして 医療費無料化

映画では観ていたのですが、(病院の)高橋事務局長さんのお話を伺い、改めて憲法25条を柱に(医療費)無料化を勝ち取った深澤村長の話は感動、感動でした。ぜひ、若手の医師、医療人に聞かせたい

思います。心からお礼申し上げます。【文中()は編集部(セントラルキッチン協会

吉田雄次様)

程度理解していたが、実際の資料等を目にして深澤村長の村民に対する思いや生命の大切さをより実感することができました。とても参考になりました。ありがとうございます。

(長野県 小嶋雄太様)

理想の医師像

医療像考える

貴重な資料やお話を通して多くのことに気づかせていただきました。将来医師になるものとして、自分の理想の医師像、医療のありかたについて考えることができました。

ここに来られたことを本当にありがとうございました。また、いつか戻ってこられる日を願って…。

(山形大学医学部 安田様)

「人のため 人を想う」を学ぶ

大学の演習の関係で訪問しました。深澤晟雄村長ほど村民を想い、村民のために尽力された方は他にいないと思います。こうした偉大な方がいたということを知っていると知らないとは全く違うと思います。

人のためになる、人を想うということがどういうことなのかを学ぶことができました。本日はありがとうございました。

(岩手県立大学 延足尚哉様)

資料を目前に

深澤精神実感

ゼミナール活動の一環としてこちらに足を運びました。深澤村長の功績はある

ご寄付に感謝

福島県郡山市富田町
神奈川県小田原市

鈴木 元様
津田 英子様